

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基調とし、「生きる力」の理念を重視して、生涯を通して知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で人間性豊かな児童の育成を目指す。
ふれあう 学ぶ 元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 子供と教職員が活力に満ち、満足できる学校 ○ 学ぶ意欲を高め、確かな学力が身に付く学校 ○ 保護者が安心でき、地域が誇りに思う学校
○児童・生徒像	○ 「ふれあう」・自ら進んで気持ちのよい挨拶をする児童 ・自尊感情を高め、思いやりの心を持ち互いを認め合い高め合う児童 ・自他の生命を尊重し、規範意識や社会性を高め、互いの人権を尊重して豊かな人間関係を育む児童 ○ 「学ぶ」 ・学習の基礎・基本、学習習慣を確実に身に付けた児童 ・問題解決力を身に付け、自ら考え表現する児童 ・言語力を身に付けた児童 ○ 「元気な子」・規則正しい生活をする中で自らの健康に気を付ける児童 ・自ら運動習慣を身に付け、体力向上をめざす児童 ・安全や防災についての知識や態度を身に付けた児童
○教師像	○ 児童一人一人を大切する教師 ○ 授業力を高める教師 ○ 組織として動く教師 ○ 教育への熱意、使命感をもった教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

1 学校の現状

【学校】各教職員が組織として動き、最大限に工夫をして協力して学校運営にあたっている。

【児童】素直で明るく、思いやりの心をもつ。知的好奇心にあふれ、自らの考えや思いを表現することができる。心身の逞しさをより一層育成していく。

【教師】何事にも意欲的で、生き生きと職務を遂行している。個々の教師のよさを最大限に活かし、児童一人一人を大切に、一層の指導力向上を図って行く。

【保護者・地域】各家庭の学校に対する関心・期待が非常に高い。今後も、PTA、開かれた学校づくり協議会、地域との連携を一層推進して行く。

2 前年度の成果と課題

【成果】

組織的に授業改善を積み重ねることに成果を上げることができた。今後も、児童一人一人に寄り添い目標を共有しながら、より効果的な教育活動を展開する。

・学習指導では個に応じた指導の推進により成果が表れている。さらに、研究授業を通じた授業改善、若手教員の育成が継続して積極的に行われている。

・学校行事等の多様な実践により、昨年度以上に児童の活動意欲や達成感、充実感を高めることができた。特色ある教育活動として金管バンドクラブの活動では、保護者の支援も受けて日頃の練習の成果を発揮し、地域行事の活性化にも貢献した。

・特別活動を重視し、主体性に高まりが見られた。なかよし班活動は通年で2学年ごとに実施し、4、5、6年生のリーダーシップが育成された。クラブ活動は、児童の創意がある自主的な活動になっている。また、各委員会も代表委員会を中心に工夫した活動を実践した。

・年間を通じた安全指導・挨拶指導等の成果が表れた。児童の挨拶は昨年度比でよくなっている。適切な大きさの発声、言葉遣い、場面を考えた会釈等もできる。

・体力向上に向け、朝の体力づくりの時間や体育朝会の工夫、運動会に向けた練習を始めとして、6年生連合運動会や区陸上大会・区ミニバスケットボール大会等へ向けた朝練習・夕練習の成果は大きい。持久走記録会、長縄チャレンジ等、計画的に実施し成果を上げた。

・毎月の避難訓練を確実に実施した。SNSに関する指導も重視して実施した。防犯、荒天等の緊急的な対応についても日頃の成果により適切に対応できた。

・PTA、開かれた学校づくり協議会との連携によって挨拶運動や環境整備等ができ、放課後子ども教室もスタッフの尽力で児童が意欲的に参加していた。

【課題】

- 様々な課題に対し、教師自らが自立と貢献の意識をもち、柔軟かつ真摯に取り組む。
- ・学力向上委員会、特別支援委員会、生活指導夕会、さらに必要に応じて臨時職員打ち合わせ会を行うことで、個々の児童の課題について情報の共有化を図り、課題解決に向けて組織的に迅速に取り組む。今後も、学習面・生活面で個の実態に応じた具体的な指導の徹底を継続して重視していく。
 - ・個別最適な学習活動の充実に向けて、タブレット端末等のICT機器を積極的に活用した学習活動の工夫を図る必要がある。
 - ・体験的活動の工夫した実践等によって、規範意識や思いやりの心の育成を図って行く。挨拶指導を継続し、教師自ら模範を示す。
 - ・体力の向上の具体策を継続していく。生活ふり返り週間の継続実施によって保護者と連携し、睡眠時間の確保等基本的な生活習慣の定着を図る。
 - ・学校図書館利活用推進校として、外部専門機関等とも連携して取り組む。
 - ・PTAや地域との連携を一層推進していく。そして、安全教育、情報モラル教育、防災・減災教育のさらなる充実を図る。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	個の尊重と豊かな人間関係の育成	○	○	○	○	
3	体力向上と健康・安全の推進	○	○	○	○	

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
学力確認調査通過率 ・前年度通過率の維持向上 児童学習アンケート調査 ・前年度維持向上	学力確認調査通過率 ・4月；国語算数90%以上 ・2月；国語算数85%以上 児童学習アンケート調査 (4段階B以上) 楽しい、分かった・できた；85%以上	・4月区学力調査通過率 国語93.3%算数91.1% ・2月学力調査通過率 国語83.8%算数86.7% ・児童学習アンケート調査 (4段階B以上) 楽しい、分かった・できた；90.5%	・区学力調査は達成基準を上回った。6年全国調査正答率も全国・都平均を上回っている。今後も思考・判断・表現力を高める学習を進める。 ・児童学習アンケート調査により、学習意欲の自己評価は、前年度、前期よりともに向上している。(4ポイント)	◎	

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	個に応じた指導の充実 (1) ジャンプタイム(国語)	全児童 国語	週 1時間	【指導体制】 担任 【取り組みのねらい・目的】 国語の「読み解く力」「書く力」「漢字」向上。 【使用教材】 国語読解問題 100マス作文 AIドリル	児童学習アンケート(国語) 国語単元テスト	12月、6月比向上。 後期、前期比向上	学習アンケート 【国語】 ・楽しい 84.2% ・わかる・できる 91.3% 前年度、前期より向上	学年に応じて内容を見直すなどして継続する。	◎
2 継続	個に応じた指導の充実 (2) チャレンジタイム	全児童 算数 (国語)	週1回 朝15分間	【指導体制】 担任 【取り組みのねらい・目的】 基礎・基本の定着。 【使用教材】 100マス計算、 課題詩 AIドリル	児童学習アンケート(算数) 算数単元テスト	12月、6月比向上。 後期、前期比向上。	学習アンケート 【算数】 ・楽しい 90.1% ・わかる・できる 95.4% 前年度、前期より向上	内容や方法に幅をもたせ柔軟に対応しながらも、学校全体を通して行うことの強みを十分意識して行う。	◎
3 継続	個に応じた指導の充実 (3) 放課後補充教室	国語 算数 (単元テスト正答率70%～80%)	週1～2回 放課後30分程度	【指導体制】 担任・専科・学習支援員 【取り組みのねらい・目的】 つまずきの個別指導。 【使用教材】 AIドリル、 東京ベーシックドリル等	2月調査 東京ベーシックドリル A診断 B診断	2月；通過率85%以上。 12月診断 9月比向上。	・2月定着調査通過率；国語 % 算数 % ・東京ベーシックドリル平均正答率 A問題； % B問題； %	重点課題を明確にし個別の指導を継続する。	○
4 継続	主体的・対話的で深い学びの実現 (1) 言語力育成	全児童 全教科等	年間	【取り組みのねらい・目的・内容】 話す・聞く、書く、読む力の向上。・話型指導 ・作文・発表・課題詩音読 ・タブレット端末の活用 ・新聞活用4、5、6年 ・調べ学習(学校図書館等) ・朝読書週1回以上 ・読書月間2回以上	教員自己評価(年1回) 読書年間目標達成率確認 学級別図書貸出利用率調査	学校評価アンケート「読書」4段階B以上80%以上 学級別図書貸出利用率 前年度比向上	学校評価アンケート「読書」4段階B以上75% 学級別図書貸出利用率 前年度比向上	読書について課題が見られる。次年度の重点とする。	△

5 継続	主体的・対話的で深い学びの実現(2) 授業改善 授業力向上(ICT活用力向上)	全教員 全教科等	年間	【取り組みのねらい・目的・内容】問題解決的な学習の定着。思考力・判断力・表現力向上。ICTの活用。 ・小中連携研究授業(3教科) ・若手教員授業観察(15回) ・若手教員研修会(13回) ・授業観察(各教員年3回)	授業観察後の指導(年3回) 教員自己評価(年1回) 児童学習アンケート(2回) 6月、12月	教員自己評価 4段階B以上 80%以上。 児童学習アンケート4段階B以上「楽しい」「分かる・できる」 80%以上。	教員自己評価 4段階B以上100% 児童学習アンケート4段階B以上「楽しい」「分かる・できる」 90.5%。	今年度目標、昨年度結果ともに向上した。	◎
---------	---	-------------	----	---	---	---	--	---------------------	---

重点的な取組事項－2		個の尊重と豊かな人間関係の育成							
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題		達成度	
道徳教育の充実		児童自己評価 教員自己評価 関係者評価 各4段階B以上 80%以上		児童自己評価 教員自己評価 関係者評価 各4段階B以上92%		地区公開講座の内容・方法をさらに工夫する。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
項目	達成基準		具体的な方策		実施結果		コメント・課題		達成度
挨拶、正しい言葉遣いや返事、後始末の励行	*児童生活アンケート 挨拶・正しい言葉遣い 後始末 (4段階B以上85%以上)		・生活指導目標の具体的な指導(看護当番、生活指導主任、担任等の連携) ・児童生活アンケート結果の活用		児童生活アンケート 挨拶94.3% 正しい言葉遣い94.5% 後始末89.2% (4段階B以上92.6%)		児童の自己評価結果が85%以上であることから、継続して指導に当たる。		○
道徳の時間の改善	*道徳授業改善 ・道徳授業地区公開講座(1月)全学級授業、講演会・協議会(外部講師招聘) ・道徳授業研修会 ・授業観察での事後指導		・「考え・議論する道徳」を目指した発問、展開の工夫 ・全教職員同じスタンスでの道徳教育実践		・道徳授業地区公開講座(1月)全学級授業、講演会・協議会(外部講師招聘) ・道徳授業研修会 ・授業観察での事後指導		計画に沿って実施。児童の実態や保護者のニーズを考慮して内容方法を改善する。		○

<p>自尊感情、規範意識、思いやりの心の育成</p>	<p>* 人権教育の重視 * 児童生活アンケート 「良好な友だち関係」4段階B以上90%以上 ・ なかよし班、児童会、委員会、クラブ活動、キャリア教育、環境教育、人権教育、オリ・パラ教育、金管バンド活動の工夫</p>	<p>・ 特別活動の柔軟な活動計画 ・ 各種出前教室 ・ 千八まつり (7月) ・ 学芸会 (11月) ・ 国際理解教育 (全学年) ・ なかよし遠足 (3, 4年) ・ 自然宿泊教室 (5, 6年) ・ なかよし班活動 ・ 幼保・小中交流活動の工夫 ・ 「夢デザインシート」の活用 ・ キッズ、開かれた学校づくり協議会、保護者等との連携の工夫</p>	<p>児童生活アンケート 「良好な友だち関係」4段階B以上96.6% ・ 各種出前教室 ・ 千八まつり (7月) ・ 学芸会 (11月) ・ 国際理解教育 (全学年) ・ なかよし遠足 (3, 4年) ・ 自然宿泊教室 (5, 6年) ・ なかよし班活動 ・ 幼保・小中交流活動の工夫 ・ 「夢デザインシート」の活用 ・ キッズ、開かれた学校づくり協議会、保護者等との連携の工夫</p>	<p>課題の設定、振り返りを丁寧に実施。児童の自己評価結果が90%以上であることから、工夫改善し継続して指導に当たる。</p>	<p>◎</p>
<p>個に応じた指導体制の充実</p>	<p>* ふれあい月間の取組 * 児童生活アンケート (2回) (6, 12月) ・ 不登校対応マニュアル活用 ・ 足立区・自校「いじめ防止基本方針」の徹底 ・ SOS出し方指導充実 ・ 「SNS学校ルール」に基づく情報モラル教育の充実 ・ SC、SSW、心理士、関係諸機関等との連携</p>	<p>・ 人権教育資料の活用 ・ 組織的支援と指導 ・ WEBQUR結果の活用 ・ 生活指導だより (月1回) ・ 特別支援委員・いじめ防止対策委員会 (月1回) ・ いじめアンケート (年3回) ・ いじめ防止月間取組活性化 ・ 生活指導夕会 (週1回) ・ 生活指導研修会 (年1回) ・ いじめ防止研修会 (年3回) ・ 校内人権研修会 (年2回) ・ 個人面談. 希望個人面談</p>	<p>・ 人権教育資料の活用 ・ 組織的支援と指導 ・ WEBQU実施 前後期各1回 ・ 生活指導だより (月1回) ・ 特別支援委員・いじめ防止対策委員会 (月1回) ・ いじめアンケート (3回) ・ いじめ防止月間取組活性化 ・ 生活指導夕会 (週1回) ・ 生活指導研修会 (1回) ・ いじめ防止研修会 (3回) ・ 校内人権研修会 (2回) ・ 個人面談. 希望個人面談</p>	<p>年間計画に沿って実施。その都度個別対応等を行った。内容・方法を改善しながら継続する。</p>	<p>○</p>

<p>重点的な取組事項ー3 体力向上と健康・安全の推進</p>				
<p>A 今年度の成果目標</p>	<p>達成基準</p>	<p>実施結果</p>	<p>コメント・課題</p>	<p>達成度</p>
<p>心身ともに健康な児童の育成 児童の安全意識の向上</p>	<p>教員自己評価体力向上 4段階B以上80%以上 生活ふり返りアンケート 早寝・早起き・朝ご飯 80%以上</p>	<p>教員自己評価体力向上 4段階B以上 % 生活ふり返りアンケート 早寝・早起き・朝ご飯 76.5%</p>	<p>アンケート結果から睡眠に課題が見られる。家庭と連携を図り意識向上をめざす。</p>	<p>△</p>

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力向上のための取組の工夫	<ul style="list-style-type: none"> * 基礎体力、柔軟性、瞬発力、走力、投力等を高める運動の工夫 ・ 休み時間の運動量確保 ・ 朝の「体力づくりの時間」、体育朝会での運動量確保、運動会へ向けた計画的指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育「めあて学習」の推進 ・ 「体力6年間のあゆみ」活用 ・ 休み時間の場の設定の工夫 ・ 体力づくりの時間の設定の工夫、運動会の在り方・練習方法の工夫、スポーツ教室等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中休み時間 25分間 ・ 体力づくり ・ 長縄チャレンジ ・ 運動会 ・ 持久走 ・ ハンドボール教室他 	実施方法や内容を工夫した結果、意欲とめあてをもって取り組むことができている。継続して成果をあげる。	◎
健康・安全への実践の工夫 基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> * 健康保持の意識向上 * 生活振り返り週間での家庭との連携「生活振り返りアンケート」(年3回) ・ 食育推進での自己管理能力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗い・早寝早起き・朝ご飯等の習慣定着 ・ 保健便り(月1回) ・ 給食便り(月1回), もりもり給食ウイーク, 郷土料理. リクエスト・小松菜給食 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活振り返りアンケート ・ 保健便り(月1回) ・ 給食便り(月1回) ・ もりもり給食ウイーク ・ お話給食 ・ 郷土料理、リクエスト、小松菜給食 等 	生活振り返りアンケートにおける児童の自己評価で、「進んで外遊びをする」の項目が大幅に伸びた。ケガも減っている。	◎
安全教育・防災教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> * 保護者、地域、関係諸機関と連携した安全教育、防災・減災教育 * 危険予測、危険回避能力の指導の充実 ・ 地域安全点検・安全マップ作成・登校指導 ・ 「危機管理マニュアル」「食物アレルギー対応マニュアル」等、各種マニュアルの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練範囲・想定拡大(保育園・学童・放課後子ども教室と合同訓練等) ・ 不審者対応訓練(年1回) ・ 「セーフティ教室」(年1回) 情報モラル、連れ去り防止、万引き被害防止 ・ 薬物乱用防止教室(6年) ・ 防災安全教室(5年) ・ 交通安全教室(全学年) ・ 自転車免許教室(3年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練(月1回) ・ 不審者対応訓練(年1回) ・ 「セーフティ教室」(年1回) 情報モラル、連れ去り防止、万引き被害防止 ・ 薬物乱用防止教室(6年) ・ 防災安全教室(5年) ・ 交通安全教室(全学年) ・ 自転車免許教室(3年) 	計画的に実施した。内容について、実施時期や方法についてより効果に実施できるよう見直す。	○

6 まとめ

ア 学力向上アクションプランについて

- ・今後も課題解決を重視した授業を展開し、「自分の考えをもつ」「伝え合い、」深める」などの言語活動の充実とともに思考力・判断力・表現力の向上を目指す。「知識・理解、技能」を養うとともに、児童に自己の目標を明確にもたせ、主体的な活動を促していく。
- ・授業では、全教科領域において、話し合い、検討し合い、高め合う学習の充実を目指す。
- ・チャレンジタイムや放課後補充教室等の個別指導では、国語・算数における基礎的な知識・技能の習熟について個々の課題分析に基づいた効果的な指導を徹底する。家庭学習にはAIドリル等の活用はもとより、自分の学習進度や興味関心に応じて学ぶことができるよう、個別の支援をより一層充実させる。
- ・読書活動をより一層活性化させる。学校図書館運営の改善により、調べ学習、探究的な学習、学習環境、ボランティア活動による読書に親しむ活動等意欲向上を図る。

イ 個の尊重と豊かな人間関係の育成について

- ・挨拶については一昨年、昨年度と、年々よくなっている。年間中、課題の見られた時期に全校をあげてキャンペーンを行い、成果をあげた。その際発足した自主的な挨拶隊の取り組みも継続している。相手意識を高め、よりよいコミュニケーションが図られるよう今後も指導していく。
- ・規則正しい生活習慣の確立について、生活ふり返り週間や生活指導週目標の具体化等によって指導を継続している。今後も全校での目標を定めて取り組む。

ウ 体力向上と健康・安全の推進について

- ・体力向上のための取組を継続するとともに、運動を楽しむ態度の育成を図る。
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の一層の活用を図り、相互コミュニケーションスキルの向上等推進していく。

保護者や地域へのメッセージ

保護者・地域の皆様に多方面でご協力頂き心より感謝申し上げます。

各種行事の実施、特に今年度は学芸会を実施することができ、児童の成長をより一層実感することができました。皆様に児童の活動の様子を参観いただけたこと、暖かいメッセージを寄せていただいたことは、児童にとってはもちろんのこと、日々学習活動に携わる教職員にとっても大きな励みとなりました。今後も、保護者・地域の皆様と協力して、「確かな学力」「自立と貢献」「思いやりの心」の育成を重視し、一層推進してまいります。児童の心身の健康を第一に考え、これからの社会を創る子供たちのための教育活動を実践します。皆様の益々のご理解ご協力をよろしくお願いいたします。